

環境都市常任委員会

(令和6年2月16日)

環境都市常任委員会

午前 10 時 35 分 開会

○大野祐司委員長 ただいまから、環境都市常任委員会を開会します。

本日の会議は、タブレット端末に掲載した日程により進めてまいります。

それでは、2、協議事項（1）、調査検討テーマについて、議題といたします。

前回の常任委員会では、政策提言に向けて調査検討したいテーマを委員の皆様からお伺いしました。本日は、正副委員長においてまとめた内容を委員の皆様にご報告いたしたいと思っております。

田中副委員長お願いいたします。

田中めぐみ委員。

○田中めぐみ委員 それでは資料1を御覧ください。

前回の常任委員会において、委員の皆様からお出しいただいたテーマは全部で5項目ありました。各テーマに共通して言えることは、目指すところが地域経済の活性化になるのではないかと思います。そこで、人手不足という課題に着目し、各種の経済対策を調査検討していくことが、今回、常任委員会として取り組むのにふさわしいと考え、正副委員長としては、人手不足の状況下における持続可能な地域経済の活性化というテーマを提案いたします。

○大野祐司委員長 ただいまの御報告について、皆様から御意見ございますか。

伊藤大輔委員。

○伊藤大輔委員 謙虚に話したいと思っていて、前回、都合で出られなかったのですが、最初にテーマを決めるというのは、去年、文教でもやっていて、やっぱり最終的に政策提言のレベルっていうか、最終的なアウトプットをどのぐらいまで持っていきたいのか。少なくとも、市の若手職員の政策提言発表ってあるじゃないですか。そこは超えていけないとまずいんじゃないか。前年度の反省をすると、僕、ちょっとずつやっていけばいいと思っているんです。前年度の文教福祉の提案だと、最初にテーマをエイジブレンドリーシティ、はい、やります。それで、結局最後に提言した内容というのは、縦割り行政を解消してほしいとか、そのテーマに関してそれぞれ文言を付け加えてぼんって。あれは、市長と授与式まであるんですよね。野々山さんとか写真撮ったのを覚えていて、やっぱりあそこまで議会で政策提言をするっていうことの重みと内容の濃さっていうか、充実さ。やっぱりそこは問われるのだろうなと。だからやり方としてテーマというのは実は最後で、アウトプットとして最終的に議提議案に持っていくのか。それで、難しいテーマを選ぶ必要はなくて、僕たちが給料を上げる以外の議提議案をつくるっていう、そのノウハウを学ぶことのほうが、たとえ小さいことでもすごい価値があるような気がして。そういうことを例えば、議員研修会で来られた早稲田大学マニフェスト研

究所の長内さんとか、市の職員の発表もそうですけれども、やっぱり基本的には、先ほど僕、議員連絡会で質問しましたけれども、講師の人がいるんですよね。やっぱり、前年度の反省を受けて、僕たちだけでは、特に政治的なつながりがあって、お互いが気を遣う中、やっぱりファシリテーターとか、そういう実績ある人を講師に呼んで。

1回いくら貰えるんでしたっけ。2回分出るんでしたっけ、毎回。なんか、先ほど2万8,000円って言っていましたよね。

○大野祐司委員長 議会局書記。

○議会局書記 3常任委員会合わせて8万4,000円で、各常任委員会に2時間ずつという形の積算で予算を計上しております。

○大野祐司委員長 伊藤委員。

○伊藤大輔委員 じゃあ、1回ごとに2万8,000円ぐらい出るわけですよね。

○大野祐司委員長 議会局書記。

○議会局書記 そのとおりでございます。

○大野祐司委員長 伊藤委員。

○伊藤大輔委員 2万8,000円が出るのであれば、例えばですよ、僕は長内さんにお話をして、ちょっと2万8,000円で来てくれませんか。それが出ないのであれば、自分たちで5千円ぐらいずつ出してとかでもいいし、ちょっとそういうやり方自体を変えていかないと、去年も僕、文教福祉常任委員会でこの話をして、揉めたんですよ。僕は皆さんと揉めたいわけじゃなくて、やっぱり多少はいいものをつくっていかないと。テーマを選んで、いや、いいですよ、地域経済の活性化、人材不足、それは僕も課題だと思っていますよ。課題いっぱいありますよ。でも、どのぐらいの提言にするのかというのを逆算してやっていくっていう方法がないと、結局どろどろになるなっていうのは見えているのかなと。一言、何か前回出ていなくてちょっと申し上げるのも気が引けるんですけども、自分もテーマと言っても具体的に何か挙げているわけではなく、そのやり方自体、いいですよ、長内さんに話をしてファシリテーターとしてここに来てもらって毎回やるっていうのを提案したいんですけども、皆さんの意見をお伺いさせてください。

○大野祐司委員長 他にございますか。

吉村慶一委員。

○吉村慶一委員 昨年の常任委員会の提言で環境都市常任委員会としては、弘法山の周辺のいろいろなことについて提案をして、それは一応市長の来年度予算とかなんかに相当程度反映されていると思います。だから昨年の環境都市常任委員会については一応それなりの成果はあった、結果は出ているというふうに私自身は判断している。それで、今年のテーマについてですけども、我々は政治の世界に身を置いている立場として、個人じゃなくて、環境都市常任委員会ということになると、常任委員会が言わなければ秦野市の状況が動かないみたいな、あるいは、常任委員会が何か言うと動きやすくなる

みたいな、そういうことをテーマにすべきじゃないのかなというふうに思っていて、人手不足は私が提案したんだけど、今年の正月以来の新聞記事なんかを読んでいると、どこの世界も皆、人手不足だということで、そのことについて秦野市のこれまでの議会における議論を聞いていると、必ずしもそこに焦点が、深刻な問題だと思うので、その深刻な焦点が当たっているとは思えないから、この最後のアウトプットが仮にそれほど大したものができなくても、環境都市常任委員会が自分の所管する施策について、人手不足について調査し、提言をしたということだけで市に対するインパクトはあると思っています。そういう意味で、私は今回正副委員長でまとめていただいた案で、中身はあとどういうふうになるかというのは分かりませんが、いいんじゃないのかと。政治家としての使命は達成できるんじゃないかなというふうに考えます。

以上です。

○大野祐司委員長 他にございますか。

伊藤委員。

○伊藤大輔委員 委員会として風を吹かす、それも大事なことだと思いますので、市長のリーディングプロジェクトにどれだけ取り入れられたかというのも、それは意味あると思うんですよ。環境都市常任委員会としてこういうものを課題に挙げていますと。ただ、やっぱりもう少しプロ意識みたいなものがあっていいのかなという気がしていて、市長のリーディングプロジェクトに弘法山のなんか提案されたことの具体的にどう取り入れられたのか。例えば人手不足でもいいですよ。じゃあ保育士の人手不足、その月額給料を上げるのかとか、去年のエイジフレンドリーシティでも縦割り行政を解消してくれってということで風を吹かす。一年間やって、視察まで行って。それで、どこまで具体性、アウトプットの形態、最後の議提議案で通す。一年間やっていく上で大きいテーマに取り組んで風を吹かすのは簡単だけれども、たとえ小さいテーマでも一個次のステップに踏み込めると、何かすごい具体性があっていいんじゃないかなって、この一年間を費やすのにと考えています。そこは僕の個人的な意見で。

○大野祐司委員長 風間正子委員。

○風間正子委員 私たちはもちろん議員で、常任委員会でやるんですが、やはり執行部と議会で、執行部がなかなかできないようなものを逆にこっちが後押しする意味で提案してあげたらやり易いのかな。じゃあ、そこがどこかって言ったら難しいんですけども、そういう意味で私たちが何年かけてやるんだったら大きなものでもいいのですが、今回の今年度のテーマとしてやっていくのであれば執行部としてはできないけれども、何か議会で後押ししたら実現できるものもあるのかなと。市の職員が言いづらいとか、なかなか実現できないようなことを私たちが後押しをしてあげるという意味でいくと、人手不足というのも確かにあちこちで足りない話を聞きますけれども。そういうものを私たちが後押しできたらいいと思うんです、やるとしたら、常任委員会で。

○大野祐司委員長 他にございますか。

阿蘇佳一委員。

○阿蘇佳一委員 もちろん正副委員長が決めた検討テーマですから、それに従いますが、ただ、人手不足の状況は日本全体の問題であって、秦野市の常任委員会としてちょっと重いテーマだなというかね、大変大事なことだと思っていますが、秦野市だけではなくてね、日本国家全体として人口減少という、赤ちゃんが生まれないというのが大きなテーマで、それを私どもがどこまでできるのかなってというのは少し疑問なんですね。大きな皆さんが決められたことには反対しませんが、そういう中で我々地方議員として、4駅周辺の活性化のことをお願いしたのですが、例えば、かなり深刻で東海大学の駅前商店街のメンバーとよく会っていますけれども、東海大学前駅を降りると真っ暗なんですね。ダイエーが撤退したから。その前にパチンコ屋があって、パチンコ屋がいいか、悪いかは別として、明るさという意味で。大学と言えば大学の45%が全国で定員割れしているんですね。実質、大学と名がつく約半分が経営難。東海大学は定員割れをしていますがけれども、夢を持ってきた学生が東海大学前駅は夜真っ暗で何だよということ非常に懸念をしています。東海大学駅前商店街だけではないですけれども、4駅の中で東海大学が一番元気がいいよねって今までは国会議員も、県議会議員も、市議会議員も集まりがあると言っていたけれども、全く今は違うだろうと思ってですね、だから地方議員としては大きいテーマを頭に入れながら具体的な地域で困っていることに対して集中的に提言をしていくということが一番大事だと思っているんです。何が起きているかという、商店街が明るいだけではなくて、ダイエーの駐車場が共同でタダで使える。月4,500円の商店会費が高いけれども、しょうがないということで。今、駐車場が使えなければ意味がないから辞めたいということで、崩壊まではいかないけれども商店会の幹部の方が大変焦っている。私自身は4駅周辺の活性化に全然反対していないけれども、現状を市の幹部の方々が全然見ていないだろうと。夜ちゃんと一回見て来てということで、かなり深刻なんですね。だから、日本が抱える大きな問題を議員として論じることが大事だと思いますが、地方議員という立場でいくと、もう少し足元のテーマに絞って心の中ではやってほしいと。希望として。2回目ですけれども様々な議論を、今、国道246号バイパス建設促進議員連盟の会長をやっているものですから、国土交通省、財務省が、昨日は関東地方整備局に要望という形で回って。そういう意味では官僚のお偉い方と直接お会いして、短い時間ですけれども話すことができ、そのテーマでは道路の整備ですけれども、国道246号バイパスで経済活性化ということだけれども、能登半島地震があって、道路というのはもちろん経済、交流が大事なんだけど、命に関することっていうか、能登半島はかなり再建が遅れていると、それは道路網が整備できない。それから、空港が使えない。今、ようやく緊急に使えるけれども、海も港が隆起して、海からの支援も難しい。今、自衛隊が1万人入って、人海戦術でやっているんだ

けれども。これで終わりますが、要は大きなテーマで勉強することは大いに結構で、そうだと思いますが、ただ、かなり目の前に迫ったテーマがあるなど。国の方々で感心しましたけれども、きめ細かいことまで理解をして熱心にやっているなど喜んでいますが、市の執行部も大変優秀な人も多いんだけれども、現場を知らなすぎるというか、見ていなさすぎるというか、4駅についても不満があるんですね。現場は今どうなっているんだと、商店街が。地方議員としてやらねばならない発言をいろいろなところすべきである。まちの活性化はどこも一生懸命にやっているけれども、私から言わせると成功事例はないと思っているんですね。成功しているところはない。頑張っているのは分かります。日本全体で人口が減っている。経済が人手不足というか、結局人口が減れば、世界のGDPも3番から4番に下がったとかあるけれども、全体で疲弊していれば活力がない。何度も言いますが、勉強するのは大事ですが、足元の問題に光を当てることが地方議員の、我々の役割ではないのかと。それは個々でやることは大事なんだけれども、ものすごく環境都市常任委員会で託された任務は重いと思っています。だから、熱心なんだけれども、全然電気が消えている状況が市の幹部の面々も言われて、そうなんですかねといった感じで、心配しています。全てやろうとは言わないけれども、ちょっとその辺のことを全く知らない、存じないということで活性化といっても、大丈夫かということは思っております。

○大野祐司委員長 高橋文雄委員は何かございますか。

高橋文雄委員。

○高橋文雄委員 大変難しい問題ですから、正副委員長がまとめたものは大体ほとんどの人が関係をしていると思います。しかし、具体的にじゃあ何をやっていこうかということになると、やっぱり議員個人の考えだとか、あるいは地域の違いもあったりね、なかなか難しくて。なにをしようかというとうどうしても細分化されちゃって、細かい問題になってくるけど、そうすると人によってこれは賛成できないよとか、これはいいよとか、はっきりはするんだろうけれども、全体のテーマとしてはまとまりにくくて、なかなか難しい問題だと思うんですよ。今のところ、何をどういうふうにしたらいいか、提言というのは考えありませんけれども、結局全員が賛同できるようなテーマでいかないと難しいと思うし、それにしても、それを具体的にやるときに賛成、反対が出たりして、まとめるというのはなかなか難しいことであって、どうしたらいいかなというような、そんな感じでいますけれども。

○大野祐司委員長 伊藤委員。

○伊藤大輔委員 やっぱり、広く浅くやるのか、狭く具体的に、阿蘇委員が言うように小さく足元を見て深くやるのか、基本的にはどちらかですよね。時間が限られているんだから。それで、僕はやっぱり深さっていうのが大事で、浅く広くやっちゃうと、じゃあ人手不足、何々解消してください、例えば行政の縦割りを解消してくださいってそん

なの言われなくても、もう俺たち分かっているよって。それをどうやってやっていいのかっていうのが分からないから俺たち困っているんだよっていうことを提案してもしようがないかなって思っていて、やっぱり1個でもいいから足元を見て、狭く、小さく、深くってなったときに、どこかの深さをもって成功とするかっていうことを、本当は話し合っただけなんですけれども、僕も無理なことは言わないので。ただ、今日のテーマの問題意識を持っています。人手不足もそうだし、皆さんのテーマ。はっきり言ってテーマはなんでもいい。だけど、この深さを深くいきたいという思いだけはあって、深く行くにはテーマを決める前に1回、2万8,000円があるので、長内さんに来てもらって、一回講習を受けるっていうのも悪くないと思うんです。経費としてあるわけだから。僕たちもこのメンバーだけでやろうとするのではなく、政策提言というのは、地方議員の政策提言というのは、このぐらいのレベルを求められているとか風を吹かすだけでいいのかとか、ちょっとそこをレクチャーしてもらって、皆さんそこで覚醒した上で、身の丈に合ったテーマを選ぶというのを僕は最後に提案して、これ何回も言いたくないので、委員長と副委員長にお願いをして今日の発言を辞めたいと思うのですけれども。

○大野祐司委員長 はい、様々な御意見をいただきありがとうございました。

私の考えでは、今回御提示させていただいたのは、まず、調査検討のテーマであるということでございます。人手不足の状況下における持続可能な地域経済の活性化について、調査検討していきましょと、まずはそこからスタート。それで、その結果の政策提言というのはその調査と検討に基づいたものであって、結局この今、御提示したものとどういう形で、当然つながってくるんですけれども、つながり方の度合いはもしかしたら違ってくる可能性があるのかなというふうに思っています。そうした中でたくさんいただいた御意見の中で、例えば、提言の質であるとか深さであるとか、インパクトであるとか、現場第一主義であるとか、具体性だとか、地域性だとか、役所に対する後押しだとか、そういったところがキーワードになったと思っているのですけれども、そうしたところにも気をつけながら、とりあえず今日のところは調査検討テーマとして、今日御提示させていただいたものとしていただきたいというふうに思うところでございます。

また、先ほど伊藤委員のほうから、先行して指導を受けたほうがいいということも当然考えられるのですが、ゼロスタートで教えてもらうよりも私たちはこういうふうに考えたんですけれども、こういう考え方というのはどうなんだろうかねっていうボールの投げ方のほうがより質の高い答えが返ってくるんじゃないかなというふうに感じるところでございます。そういった面からも今日のところの調査検討テーマについては先ほど副委員長が申し上げました、人手不足の状況下における持続可能な地域経済の活性化といたしたいと思うところでございますが、御賛同いただけますでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○大野祐司委員長 ありがとうございます。それではそのようにさせていただきます。

次に、所管事務調査の日程調整について、協議に入ります。まずは議会局から説明を求めます。

議会局書記。

○議会局書記 それでは、所管事務調査の日程について御説明させていただきます。

資料2を御覧ください。

所管事務調査の候補日としましては、公務などを考慮しますと、2つの日程案となります。まず、1案として5月8日・水曜日から5月10日・金曜日まで、2案として、5月13日・月曜日から5月15日・水曜日までの2つの案から御協議いただければと思います。本日、日程が決まりましたら、視察先や視察項目については正副委員長に一任をお願いしたいと思います。また、所管事務調査は2泊3日の日程で予算は8万円となります。

以上でございます。

○大野祐司委員長 ただいま、議会局から説明がありましたが、日程についてはいかがでしょうか。

じゃあ一回休憩して、この日絶対に駄目というのがあればお願いします。

暫時休憩いたします。

午前11時02分 休憩

午前11時02分 再開

○大野祐司委員長 再開いたします。

視察の日程については、5月13日、14日、15日の3日間といたしたいと思います。

これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○大野祐司委員長 御異議なしと認めます。

それでは、そのように決定いたします。

他に委員の皆様から御意見、御希望はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○大野祐司委員長 それでは、視察先については正副委員長一任とさせていただき、決まり次第、委員の皆さんに御報告いたしたいと思います。

次に、その他でございますが、委員の皆様から何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○大野祐司委員長 議会局は何かありますか。

議会局書記。

○議会局書記 それでは、政策提言に関する次回の常任委員会につきまして、4月16日・火曜日、議員連絡会終了後に開催を予定したいと思います。

以上でございます。

○大野祐司委員長 それでは、4月16日、日程の確保をお願いいたします。

以上で、環境都市常任委員会を閉会いたします。

午前11時05分 閉会